

平成29年度
事業報告書

社会福祉法人 埼玉福祉事業協会

平成29年度 事業報告

1、会是・基本理念の実践

社会福祉法令が大きく変化する中、利用者の生活の安定と自立支援のために、会是・基本理念を事業の原点として、事業の展開を行いました。

各法に基づく運営管理の基本を構築し、職員に周知にとどまらず、効率の良い運営管理に努めました。契約に基づく利用者生活支援サービスの向上の為に、職員の育成に努めると同時に、適正な事務会計の処理を行い、施設の経費の適正且つ効率的な執行となるように健全な運営のための努力も行いました。重い障害特性だからこそ、施設があるのだという認識のもと、支援困難な利用者の理解と支援にこそ職員の学びがあるという姿勢で取り組み、施設全体で支援困難な利用者に対応しました。また、虐待を防ぐのではなく、虐待に到らない現場職員育成こそが重要と考え、職員の資質向上を図りました。インターネットや広報紙の発行など、法人の活動をわかりやすく地域や関係者に伝えるなど、法人・施設の様々な広報活動を行いました。

さらに、事業の広がりによる支障が発生しないように慎重に対応し、利用者支援の低下を招かないように細部に渡って検証し前向きに対応できるように管理運営を行いました。

- (1) 法律及びこれに基づく命令(告示・通知を含む)並びに法人の定款・諸規程等を遵守するとともに、社会規範を尊重する事業展開をしました。
- (2) 利用者の人権を尊重し、利用者ひとりひとりの個性を大事にして豊かで充実した生活を送ることができるよう、個別支援計画に基づいたサービスを実行しました。
- (3) 利用者に「そこで住みたい、そこに通いたい」と選ばれる施設、利用者主体の施設作りを目指し、サービスの質の向上を図りました。集団生活や職員の都合を優先した支援を行わず、利用者主体の個別化された支援を提供するように心がけました。
- (4) 利用者が地域社会の構成員のひとりであることを尊重し、重度の障がいのある人への生産活動の支援と、生産活動の充実を図り、生産製品の販路拡大と工賃増強に取り組みました。また、障がいのある人の経済的な自立を支援するために、職業指導員はその培ってきた技を職業訓練に活かし、就労支援員はビジネスマナーや社会性を身に付ける職業準備支援を行いました。
- (5) 整備された環境を提供することにより、利用者の生活の快適さを促進し、衛生を保持することにより、利用者の健康を維持する目的のもと、生活・作業の場面を問わず、整理整頓・清潔に常に気を配りました。また学園の備品を大切に使用し、消耗品等を効率的に使用するとともに、水道光熱や営繕等に係わる経費のムダを省き、限られた財源を真に利用者支援に必要な費用に有効活用できるよう取り組みました。
- (6) 新規事業への取り組み

当法人に直接入所希望を申し込まれ入所待ちをしている方々の、利用希望への対応は当法人の長年の課題であり、これまでの事業運営の経過の中で、どの施設利用も断られ、困難な状況に追い込まれている、短期入所の長期利用者多数います。また、満床により断る現状の多くのケースは、強度行動障がいや発達障がい、触法の障がい者です。さらに従来就労継続支援事業においても、発達障がいや精神障がいのある人の受け入れが増えている現状があり、今後も利用希望者が増えると見込まれます。

しかし、現状の本体施設「杉の子学園」はバリアフリー化と常時医療ケア提供可能な体制が整備されていないことや、成人施設であるため、障がい児の短期入所事業の利用希望に際して受け入れが困難などの社会のニーズに答えられていないという課題がありました。

これらを踏まえ、社会のニーズに積極的に対応し、多様な障がい種別の利用者を受け入れるという障がい福祉の使命のひとつを果たして行けるよう新規事業の計画を立て、そのための準備を継続的に行いました。

(7) 障害者支援施設設立計画

さいたま市が計画する平成 29 年度障がい者（児）福祉施設設立計画募集事業の障がい者支援施設の新設に応募し、平成 29 年 7 月 5 日付で障がい者施設整備事業として事業採択されました。平成 30 年 1 月 22 日より着工しています。

- ① 名称 障害者支援施設 ゆずり葉
- ② 住所 さいたま市西区大字塚本字川通 195
- ③ 事業内容 施設入所支援 (50 名)
宿泊型自立訓練 (20 名)
短期入所 (併設 10 名)
生活介護 (60 名)
就労継続支援A型 (10 名)
就労継続支援B型 (30 名)
一般相談支援(地域移行支援・地域定着支援)
- ④ 開設年月日 平成 31 年 4 月 1 日

(8) 新規共同生活援助事業、短期入所事業の設置計画

① 目的

障がいのある人に対して、主に夜間において、共同生活を営む住居で相談、入浴、排せつまたは食事の介護、その他の日常生活上の援助を行うことで、生活への不安の軽減、共同生活による身体・精神状態の安定を図り、持続した地域生活を送るための場として、入所施設からの地域生活移行を円滑に進めることを目的と致します。また、グループホームでの生活を体験的に利用することで、地域での生活に徐々に慣れていくスモールステップの仕組みづくりを目的と致します。

② 場所等

場所利用する事業所や一般企業等の就職先に通いやすい場所を選定することで、就労活動及び地域生活の持続を可能・実現できるよう検討します。

- ③ 資金計画 補助金などの申請などを行い、不備が生じない資金計画を立てます
- ④ 規模等 グループホームとして定員 10 名を計画
- ⑤ 開設予定 平成 32 年 4 月 1 日

2、実施事業内容

事業は、自立へ向けた学習や体験を主軸として、それぞれに役割と性格を持って利用者の活動要求に応じていく様にしました。法人として多機能な事業の展開をすることにより、それぞれの機能に、利用者それぞれの個性や役割が発揮されるように支援してきました。

(1) 杉の子学園 生活介護事業：定員 66 名

主に、昼間、常時介護を必要とする方に入浴、排泄、食事の介護、創作活動又は生産活動の機会を提供しました。

生産活動として、「レンタルおしぼりの製作」「農作物の生産」「手すき和紙製品の製作」「石鹼や古紙再生植木鉢等のリサイクル製品の製作」「ピアショップ等の商品販売・接客業務」の 5 種類の作業を提供し、ご利用者の障害特性を踏まえた工夫をもって全員参加の支援を提供できるよう努めました。

利用者の働く場を拡大と地域貢献と位置付けた「杉の子マート」事業も、順調な経営が続き、利用者の工賃アップに大きく貢献することが出来ました。また、自家製品のあかしの森のパンはもちろんのこと農作物の需要も高く、法人内の生産製品の販売にも大きな貢献となりました。

さらに、埼玉県立精神医療センター「あかしの森のレストラン」の開設により、利用者の接客作業への参加条件にスモールステップを設定することが出来、自立学習への対応が高まりました。

(2) 杉の子学園 施設入所支援事業：定員50名

夜間及び休日に、入浴、排泄、食事の介護、その他の援助を実施しました。余暇活動プログラムとして「ウォーキングクラブ」「スポーツクラブ」「創作クラブ」「音楽クラブ」等を提供すると共に、外部ボランティア講師を招き、音楽交流事業への参加も実施しました。

利用者自治会の活性化をサポートすると共に季節の行事(運動会・クリスマス会)や親睦旅行、外出支援、地域の行事への参加等、利用者の個々のニーズを把握し個別支援計画に基いたサービスの提供を実施しました。

健康管理では、看護師による医師の指示に基づいたケアサービスを提供しました。嘱託医：大宮中央クリニック医師回診、協力医療機関：大宮中央総合病院（休日夜間含む通院・入院受け入れ）、金子歯科診療所(往診)、白岡ファミリークリニック（月2回往診）により、日常にご利用者の健康状態の把握に努めると共に病状が進行しないよう、早期発見早期治療の徹底を図りました。

(3) 杉の子学園 短期入所事業（併設型）：定員7名、（空床型）：定員50名

居宅において介護を行う人（障害者の家族等）が疾病、その他の理由により、障害児・者の介護が困難となった時に、短期間入所して頂き、入浴、排泄、食事の介護、その他の援助を、児童から成人まで幅広い利用者にサービスの提供を行いました。また、緊急一時保護の目的を果たすだけでなく、利用者の希望や特性に応じた生産活動への参加や余暇活動への参加を図りました。

(4) 杉の子学園 日中一時支援事業(知的・身体・精神・児童)：定員20名

日中における活動の場を確保し、介護者の就労の支援や、一時的な休息を目的とし、積極的に利用者の受け入れを行った。入所施設に併設しているメリットを生かし、週末や放課後の他、早朝、夜間の受け入れ及び、送迎サービスも実施し地域の福祉ニーズに貢献できるよう努めました。

特に中高特別支援学校に通われている18歳未満の障害のある方々の利用が中心で、放課後や週末、長期休暇時には多くの方々が利用されました。

(5) あかしの森 就労移行支援事業 定員20名

一般企業等への就労を希望する方に対して、定められた期間にわたり生産活動その他の活動の機会を提供し、就労に必要な知識及び能力向上のために必要な訓練、その他の支援を行いました。株式会社アークミール様との業務委託契約に基づき、店舗での職場実習(施設外支援)も実施しました。この様な、施設外就労や施設外支援を実施し、本人の希望や適性にあった職場への就労及び定着支援を行いました。

(6) あかしの森 就労継続支援事業A型：定員10名

障がいのある人の経済的自立を支援するために、就労を希望する方と雇用契約を結び、高度な作業工程の取得を目標とし、就労の喜びを得られるよう援助を行いました。生産活動として、「パンの製造」「焼き菓子の製造」の機会を提供し、埼玉県の最低工賃を保障し、利用者が自立した生活を送れるよう支援しました。

(7) あかしあの森 就労継続支援事業B型：定員30名

一般企業等に雇用されることが困難な方に対して、就労の機会や生産活動、その他の活動の機会を提供し、その知識及び能力向上のために必要な訓練、その他の支援を行いました。就労支援プログラムとして「パンの製造」「焼き菓子の製造」「レンタルおしぼりの製作」「花木栽培」などの生産活動の提供のほか、飲食店への就労を希望する方に対して、大宮花の丘農林公苑内にある「花の食品館レストラン」で調理の補助や食器洗浄等、厨房業務を身に付けるとともに、人間関係や接客マナー等の社会性を学び場の提供も行いました。また、施設への公共交通機関の利便性が低いことから、通勤手段として送迎サービスも行いました。

(8) あかしあの森 短期入所事業（単独型）：定員19名

居宅において介護を行う人（障害者の家族等）が疾病、その他の理由により、障害児・者の介護が困難となった時に、短期間入所して頂き、入浴、排泄、食事の介護、その他の援助を行った。

しかし、ほとんどの利用者が、短期入所でありながら、障害等により長期利用となってしまうということが継続しました。そのため、常に満床の状態が続き、緊急な受け入れが困難な状態が続きました。

(9) プリムローズ 共同生活援助事業：定員7名

共同生活を営む住居で、入浴、排泄、食事の介護その他の援助を行いました。

社会的自立支援と地域生活の充実を図るため、安定した就労活動を継続出来るよう、きめ細やかな生活支援サービスを提供しました。利用者主体のライフスタイルを確立し、社会的自立を促進する為、休日の余暇活動支援の提供を個々のニーズに合わせて実施しました。

(10) プリムローズ 短期入所事業（併設型）：定員4名

入浴・排泄・食事の介護、その他の支援を行う共同生活を支援しました。ほとんどの利用者が、短期入所といっても、障害や家庭・社会的な事情により、長期利用となりました。常に満床の状態が続きました。平日の昼間は、地域の作業所へ通勤できるよう支援し、夜間等の余暇時間は、自立支援のための様々な支援を行いました。

(11) さいたま西部生活支援センター

居宅介護事業（身体・家事）、重度訪問介護事業、同行援護事業、行動援護事業、移動支援事業

地域生活の充実を図る為、在宅生活における介護サービス、公共交通機関や公共施設等の利用支援、遊びや運動を通じて発達やコミュニケーション支援の実施に努めました。利用者の主体は杉の子学園の日中一時支援利用者が多数を占め、特別支援学校への送迎などの移動支援や交流センターや公共施設利用時の行動援護が多くみられました。また、サービス利用希望が土日週末に集中してしまう為、法人内の機能の調整を行い、多くのニーズに応える事が出来るようにしてきました。

(12) さいたま西部生活支援センター 特定相談支援事業・一般相談支援事業・障害児相談支援事業

障がいのある方が福祉サービスの利用を申請する際、「サービス等利用計画」が必要となったことを受け、より良いサービス提供と利用計画案を作成して福祉サービスをご利用いただくよう居宅介護事業を行っているさいたま西部生活支援センター内に「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく特定指定相談支援事業」と「児童福祉法に基づく障害児相談支援事業」の事業所を設置運営し、利用者の皆様に安心して福祉サービスをご利用いただくための相談支援を行いました。個々のニーズに沿ったサービスの提供を図るために「サービス等利用計画」を作成しました。

(13) 浦和ふれあい館喫茶ルーム「あかしの森」

高齢者・障がい者共生事業（活動応援プラン）である浦和ふれあい館喫茶ルーム「あかしの森」の運営は、タイアップ先である公益社団法人さいたま市シルバー人材センターの理解・協力の元順調に推移しました。この事業では、あかしの森で製造した、パン・焼き菓子、杉の子学園で育てた新鮮野菜、手すき和紙の製品、古紙再生植木鉢、リサイクル石鹸等の生産製品をシルバー人材センターの会員の皆様が、販売・接客して頂くもので、高齢者・障がい者共生事業として高く評価されました。

(14) 地域における公益的な取り組み

生活困窮者に対する相談支援事業（彩の国あんしんセーフティネット事業）

生活困窮者に対する相談支援事業は、制度の狭間の問題や生活困窮等の新たな福祉課題に対して、柔軟に対応し、社会福祉施設が地域のセーフティネットの役割を担うのが目的であり、具体的には、地域の生計困難者からの身近な相談機関となり、市町村社会福祉協議会と協働して経済的援助を含めた即応性のある対応とともに継続的な支援を行うものとして取り組みました。また生活困窮等の新たな福祉課題に対応するために、埼玉県内の社会福祉法人が協働して、利用可能な制度の紹介や支援機関への橋渡しを行うとともに、逼迫した状況にある場合には経済的援助（現物給付）を行い、生活困窮者の自立を支援しました。

3、生産活動の提供

(1) 杉の子学園 おしぼり班

不良品おしぼりを出さないように徹底するための、支援や工程管理などでの利用者参加や対応など自立支援のための支援を行いました。長期連休中の多量のおしぼり製作時には、「あかしの森おしぼり班」と連携を取って対応するなど、利用者の参加と支援員のシフトの工夫などにより、取引先との関係向上を図りながら、製作量向上にも努めました。また、作業室内の衛生環境（清掃、作業衣の清潔維持、身嗜み）についての支援も常時行いました。

(2) 杉の子学園 農耕班

冬季に行っている土づくりにより徐々に豊かな土へと変わりつつあります。作業工賃アップの為、畑の坪効率を上げる、作付種類の工夫や、最盛期の機会損失を減らす工夫などを繰り返し行いました。

課題である除草作業等のメンテナンスを極力減らすために、早めの対応をおこないました。夏場の鮮度落ちに関して早朝からの収穫などの工夫も行いました。利用者の作業時間の変更（夏場早出）等を検討しました。

(3) 杉の子学園 紙漉き班

一人ひとりのご利用者の支援方法を支援員同士で話し合い、統一方針に基づいた支援を行いました。製品販売では、ピアショップ販売への授産製品の提供を増やすことや大量注文が入った際に対応できるように、在庫管理を行うことを実施しました。(株)アークミール様のCSR事業によるご支援を賜り、ホタテ貝殻を再利用して石油原料の使用量を半減させた画期的なECO箸と、手漉き和紙を使用した箸袋を組合せた商品の製造を開始。和紙の製造にさらに力を入れて取り組みました。

(4) 杉の子学園 館内作業班（リサイクル石鹸、彩生ポット、館内美化）

継続的に椅子に座る事が難しい利用者が参加している班なので、利用者一人ひとりの作業目標に沿って、統一感のある支援を行いました。作業の際は、利用者が飽きる事がなく達成感を感じる事が出来る支援を行い、仕事をする喜びを感じてもらえるように支援しました。また、急な注文があっても対応できるように、石鹸の生産と在庫を計画的に行いました。また、彩生ポットを売るための工夫、売上増加や販路拡大について案を出しあい工夫実行しました。利用者の特性にあわせた声掛けの他、支援員自らが

模範を示す事で、作業意欲・向上につながるように支援しました。さらには、作業道具を保管している倉庫及び作業室内の美化にも努め、紙漉き作業班と連携を図りながら、質の高い製品が作れるように支援しました。

(5) 杉の子学園 販売班・杉の子マート・あかしあの森のレストラン

月曜日から金曜日までさいたま市内の区役所（西区、桜区、中央区、浦和区、大宮区、南区）のピアショップ販売参加や地域の販売行事への出店を行いました。個々の障がい特性にあった作業内容や環境を提供するため、利用者が興味関心をもつ作業種を創意工夫して探し、楽しく作業に参加してもらえるように支援しました。

また、「杉の子マート」では、授産製品の販売店舗・地域への発信拠点として、ご利用者が「販売」を通して地域の方と交流を持つことで、対人関係や接客マナーなどを体験的に学び、自立へ向けた支援を行いました。野菜の袋詰めや洋菓子の箱の組み立てなどを行う支援、農耕班と協力し、廃棄野菜を減らす努力も行いました。

さらに、「あかしあの森のレストラン」では、接客サービスの希望があっても働くことが困難なご利用者を対象として、障がいに対する理解も深く、接客練習の協力を得られる場所での接客をスモールステップの一つとしてご利用者に提供しました。

(6) あかしあの森 おしぼり班

爪、髪、髭などを確認して、衛生第一で作業を支援しました。利用者の作業の幅を広げられるように、支援しました。「杉の子学園おしぼり班」との連携も出来、分担して対処することも順調に出来ました。

清掃はおしぼり室の中だけではなく、館内清掃も行ない、自分達が使う施設は自分達で綺麗にする意識・行動を職員自らが率先し、利用者の模範となるよう職務に努めました。

(7) あかしあの森 花木班

花卉栽培にあたっては、土の乾燥具合に留意し、水分過剰にならないよう心掛け、利用者へきめ細かく声掛け、見守りを行ないました。作業において清掃の時間を設け、温室内を清潔に保つことを意識すると共に時間配分を工夫して効果的に作業に取り組めるようにしました。杉の子マートに納品し、お客様に喜んで頂けるように計画的な花卉栽培に取り組む一方、利用者の性格や特性に見合った作業の提供を行い、作業時間が楽しいと感じて頂けように支援を行いました。

(8) あかしあの森 パン工房

利用者の作業能力向上と、製パンに携わる範囲を広げる支援を繰り返し行いました。製造規模拡大を見据えた安全な製パンマニュアルの整備を図り、利用者の工賃向上のための努力をしました。また、お客様が飽きないよう、季節に応じた変化のある商品作りや、販売のロスを少なくする努力を行いました。利用者の就労に向けた知識や能力の向上を意識して声掛け、見守りを行いました。

(9) あかしあの森 菓子工房

菓子工房の目標である「毎日来ることから始めていきましょう」について、支援員がサポートしながら実行し、目標達成できるように努めました。利用者の一人ひとりのスキルアップを目指し、支援員がサポートをしながらみんなで協力して取り組むようにしました。プリントサブレ等大量注文に対応できるように整備してきました。また、衛生面に気を配り、「安心」「安全」な商品を提供し、利用者の就労に向けた知識や能力の向上に努めました。

(10) あかしあの森 花の食品館レストラン

1階店舗はお客様から見えるので、来店時のマナーを重点的に継続して声掛け支援を行いました。

作業を行っている利用者・職員が協力しているから料理が出来ている事を声掛けし、楽しく仲よく作業を行えるようにしました。さらに、1階2階共通して、手の洗い方、マスクの着用の仕方(鼻を出さない等)、帽子のかぶり方、爪(汚れ、伸び具合)等を継続して衛生面の声掛けを行いました。お客様が、

リピーターとなっていただけの対応にも工夫しました。利用者の一般就労に向けた知識や能力の向上を意識して支援や見守りを行いました。

4、生活支援

個別支援計画による、支援方法のモニタリングは3か月ごとに行いました。

また、個別支援計画に沿った支援を行い、記録の入力・閲覧を速やかに行うことで全職員が情報を共有し統一性を持って充実した支援を展開することを心がけました。食事支援、排泄支援、入浴支援、着替え支援、整容・洗面の支援だけでなく、生活環境整備支援等も随時行いました。さらに、リネン交換(週1回実施、失禁時はその都度行なう)や居室の清掃・整理・整頓の支援・介助も行いました。

生活支援は、利用者支援の充実を図るために、7班の体制で支援を実施しました。実施支援の事例は以下の通り。

- (a)居室整理支援をしました
- (b)余暇時間の外出支援をしました。
- (c)利用者が、楽しめるものを常に考えて試行や実行をしました。
- (d)個別支援計画を基本とした、日常活動全般の見守りと声掛けを実施しました。
- (e)利用者の行動の特徴や表情の変化での声掛けが出来るようにしました。
- (f)話をしやすい環境を作る事を大切に考え、利用者が何を訴えているのか傾聴支援をしました、
- (g)発語が困難な利用者には表情で汲み取る事が出来るように努力しました。
- (h)見守りと声掛けを職員同志で考え統一性を持って行ないました。
- (i)前持った声掛けなど、個人にあった支援で行動が柔軟に出来るよう支援しました。
- (j)より利用者のニーズに応えた、余暇時間の充実を図りました。
- (k)利用者個々の特性に合わせた支援をおこないました。
- (l)休日の余暇時間に、杉の子マートでの買い物や多目的ホールでのカラオケを支援しました。
- (m)職員間、情報を共有し、利用者の特性を理解した上で支援にあたりました。
- (n)館内設備の破損について、発見後早急に修繕の対応を行ないました。
- (o)季節感ある音楽の提供をし、音楽を楽しまれるとともに情緒も感じられるよう支援しました。
- (p)長期帰省期間に提供する外出支援を継続し、利用者の皆様が楽しめる企画を実施しました。
- (q)個別に対応でき、利用者に満足していただける外出支援を行いました。
- (r)送迎サービス時、時間に余裕を持ち、安全運転で事故をなくす対応をしました。
- (s)利用者の「要求」「必要性」に応える援助のための情報提供をしました。
- (t)プリムローズでは、生活の場面を通して利用者の自立支援を行いました。
- (u)プリムローズでは、余暇時間を利用して利用者が抱えている不安や思いを相談しやすい環境を作り、またその問題を解決できるよう、他利用者を交えての話し合いやお互いが納得できるような助言を行ない、満足した生活を送っていただけるよう配慮しました。
- (v)プリムローズでは、利用者の道具の扱い方を小まめに確認し、必要であれば使用方法の説明を行ない、器具などの破損がないよう努め、修理等が必要な場合はすぐに修理依頼を行いました。

5、余暇活動

余暇活動を以下の通り実施しました。

クラブ名	内容
ウォーキングクラブ	桜並木が整備されたびん沼川に抱かれた緑豊かな田園地域に位置することから、びん沼川沿いを散歩したり、近隣の公園（びん沼自然公園等）にて身体を動かしたりすることにより、体力増強に努めました。
スポーツクラブ	近隣の公園（びん沼自然公園等）に行き、ボール等のスポーツ道具を使って身体を動かすことや、バドミントンや縄跳び等の遊具を使った運動に取り組みました。夏休み期間中には、塚本自治会の地域行事（早朝のラジオ体操）に参加しました。また、雨の日にも身体を動かして頂けるよう近隣小学校の体育館を使用し取り組みました。
創作クラブ	食堂にて、クレヨン、絵の具を使用して塗り絵を行いました。その他、工作や貼り絵等の様々な創作メニューも提供しました。
音楽クラブ	食堂にて、季節の歌、行事の歌、リクエストを合唱したり、杉の子マート2階に移動してカラオケをしたりして楽しんでいただきました。
ふれあい音楽交流会	毎月第3土曜日、クラブト室にて10:00～11:00までボランティアの先生2名を招いて季節の歌等合唱を楽しみました。ふれあいの歌、季節の歌、利用者の好きな歌を歌いました。
ふれあいコンサート	平成30年3月21日開催、埼玉県障害者音楽交流推進協議会主催「ふれあいコンサート」に合奏・合唱として出演しました。音楽を通じて地域の方々や他施設のご利用者と交流を図るとともに、練習の成果を発表する喜びを感じて頂く機会となりました。
トレーニング	平成29年11月より開始。トータル・バランス・コンディショニングの講師を招聘し、健康増進活動として毎月2回開催しました。 トータル・バランス・コンディショニングとは、「医者に行っても痛みの原因がわからない、治らない」という悩みを抱えるスポーツ選手や患者のために研究・開発された「全身的な筋バランス改善方法」のことで、「ウイークポイントをいかに克服するか」「動きのバランスをどうやって調節していくか」をテーマとしています。

6、行事

以下の通り実施しました。

行事名	内容
埼玉福祉事業協会フェスティバル	時期：4月29日 場所：埼玉福祉事業協会大駐車場 内容：お世話になっている方々、法人利用者及び他施設の方や近隣の方々様々な方に楽しく過ごして頂ける場を提供し、利用者、御家族と親睦を深めました。ステージプログラムの他、飲食屋台など多数の出店をしました。
親睦旅行	時期：6月、7月 場所：国内名勝地 内容：公共施設や交通機関を体験し、自立に向け社会性を身に付けて頂くと共に、旅の楽しさを実感して頂きました。事前にアンケートを行い、利用者が行きたい場所を考慮し1泊と2泊コースに分けて利用者自身に選択して頂き希望の旅行に参加する事が出来ました。
七夕会	時期：7月7日 場所：杉の子学園食堂、あかしあの森食堂、プリムローズリビング 内容：五節句の一つで、日本古来の伝統行事を祝って、短冊に思いを込めたり、七夕に纏わるDVDを上映したりしました。

大運動会	時期：10月 場所：日本大学法学部大宮校舎・グラウンド 内容：体力向上を目的とし、障害の有無を超えて参加される方々との交流を深め、また社会性を身に付けるイベントとして行いました。
西区ふれあい祭り	時期 11月 場所 三橋総合公園 多目的広場 内容 地域の祭りに参加しました。法人からも出店、「あかしの森パン」「焼き菓子」の授産製品や「今川焼き」等の販売を行いました。
埼玉福祉事業協会 クリスマス会	時期：12月 場所：桜区プラザウエスト「さくらホール」 内容：利用者、御家族、お世話になった方々と、クリスマスに因んだ演目を通して交流を深めました。
餅つき大会	時期：12月 場所：埼玉福祉事業協会大駐車場 内容：利用者、家族、職員一同共に、日本の年中行事の1つである餅つき大会を行い、地域の文化を伝承すると共に来年の幸せを願いました。
新年会	時期：1月 場所：杉の子学園・食堂 内容：新たな年を迎えられる喜びを感じ、健康で充実した一年を迎えられるよう、関係者が一堂に交流しました。
節分会	時期：2月3日 場所：各施設・食堂 内容：五節句の一つで、日本古来の伝統行事として、豆まきや恵方巻きを頂きました。

7、給食

機器や機具を有効に活用してより効率的でおいしい給食提供へ努力してきました。利用者の楽しみな給食となるように、人材の育成と管理にも努め、給食提供の向上を図りました。栄養士は、原材料単価や発注・納品についても確認し、適正な価格で行われるように管理しました。また、食材の、鮮度、食品添加物のない食材など食品衛生管理に注意して検食簿などを参考に適切な指示を行いました。

(1)給食内容の向上

- ①嗜好調査による利用者の嗜好に対応する給食に努めるようにしました。
- ②検食簿を強化して、広い視野での給食の検討をしました
- ③利用者の自由や希望をなるべくかなえられるメニューを実施しました。

(2)衛生管理

- ①集団給食の衛生管理に努め、調理器具の消毒・室内清掃は毎日励行しました。
- ②食中毒の予防及び食品管理等については、給食事故を出さないように努めました。
- ③食中毒を未然に防止しました

(3)利用者一人あたりの栄養所要量の確保をしました

美味しい食事の提供と同時に、給食の残滓や利用者の嗜好を参考に、平均栄養量に見合った、献立・調理となるようにしました。

(4)行事食等の提供をしました

クリスマス会等の行事において、季節や利用者の嗜好に合わせた食事を提供しました。季節感(旬)が感じられる食事を提供しました。体調不良の利用者については、看護師に相談しメニューを考慮して提供しました。

(5)検食等

検食簿・残食簿の記入を徹底、利用者に安心・安全な食事を提供するようにしました。

8、健康管理

利用者は重度・最重度の知的発達障害と生来の虚弱性に加えて、癲癇・精神障害・その他の合併症を持っている方も多いため、利用者の定期的な健康診断をはじめ、日々の健康管理には細心の注意を払い、健康の維持に努め、生活のリズムを崩さないように支援しました。

疾病等の対処は、早期発見・早期治療を心掛け、利用者の心身の状態観察に細心の注意を払って対応してきました。地域医療機関との連携、内科・精神科の嘱託医との連携も円滑に行いました。

また利用者は体調の変化等を自己表現できない方が殆どであるため職員・看護師・医師・3者の確実な連帯によって適切なケアを実施しました。

(1) 日常支援実施内容

- ①慢性疾患などの服薬や塗り薬などの支援を行いました。
- ②往診歯科の実施 往診歯科を継続し定期的な歯科の健康に努めました。
- ③日常ケアとして、検温・顔色などの確認。適時血圧・脈拍の測定。実施しました
- ④アトピー。アレルギーなどの個別的健康への配慮をしました。
- ⑥加齢による身体機能への配慮をしました。
- ⑦衛生管理として、トイレ・手洗いの衛生管理の徹底を実施しました

(2) 定期健康診断等を実施しました。

- ①定期健康診断(胸部X線、検便、検尿、血液検査、等)
- ②細菌検査
- ③内科検診
- ④精神科相談
- ⑤予防接種

9、防災・安全

(1) 防災と安全確保の為に、消防計画に基づいた日頃の訓練を行いました。

(2) 事故防止の訓練および研修を通じて、危機意識や、安全の確認点検意識を高めました。

(3) 訓練時には、事故が発生しないように配慮して行いました。

(4) 主な防災対策

- ①避難訓練の実施
- ②防災用非常食の備蓄 給食備蓄を含めて、人数分の食料と飲料水保管
- ③消防設備及び避難口の点検 業者の定期点検外に、随時点検の実施

(5) 車両安全

- ①安全運転を行なう為の研修を定期的に行いました。
- ②運行記録表の管理、公用車運行の適正配備管理等を行いました。

10、人事・研修

活力のある人材育成を目指し、人事の効率化や適材適所を行うことで、人材育成を行い、支援技術や専門性の向上を図りました。特に、時間が掛かっても法人の理念・方針、職員倫理綱領等々が現場に浸透し、利用者の人権や尊厳が生活の隅々まで守られているような施設を作っていくための職員育成に力を注いできました。

(1) 障害福祉従事者等養成研修

- ・サービス管理責任者(介護)(地域)
- ・相談支援専門員

- ・強度行動障害支援者養成研修（基礎）（実践）
- （2）内部研修
 - ・初任者研修
 - ・個別支援計画作成に関わる研修
 - ・あすなろ台帳システム活用に係わる研修
 - ・衛生管理研修
- （3）外部研修
 - ・新任職員研修
 - ・中堅職員研修
 - ・中堅職員フォローアップ研修
 - ・介護職員実務者研修（介護福祉士受験資格取得）
 - ・社会福祉施設職員会計実務講座
 - ・社会福祉法人管理者研修
 - ・メンタルヘルス推進者養成研修
 - ・感染症基礎研修
 - ・彩の国あんしんセーフティネット事業担当相談員養成研修
 - ・地域における公益的な取組み推進セミナー
 - ・福祉有償運送運転者1日講習会
 - ・福祉車両安全運転講習会
 - ・社会福祉法人監査研修
 - ・社会福祉法人に対する公認会計士監査等の概要
 - ・福祉サービス苦情対応研修
 - ・ジョブサポーター研修
 - ・給食施設従事者等研修
 - ・浄化槽講習会
- （4）講師派遣
 - ・埼玉県発達障害福祉協会 平成29年度実践交流会
 - 「構造化だけでは対応できない強度行動障害利用者の支援に関して」
 - 「プレーイングコーチとしての障がい者支援の考え方について」
- （5）関係機関その他
 - ・全国知的障害関係施設長等会議
 - ・日本知的障害者福祉協会 日中活動支援部会全国大会
 - ・全国社会福祉法人経営者協議会 障害福祉事業経営セミナー
 - ・埼玉県発達障害福祉協会 障害者支援施設部会、地域生活支援部会、通所事業所部会
 - ・さいたま市障害者総合支援センター 就労移行支援施設連絡会
 - ・さいたま市西区相談支援事業所連絡会

11、会議・委員会

会議名	開催	内容	出席者
職員会議	月1回	運営全体に関する事	全職員対象
運営会議	月2回	施設運営についての検討	管理者・運営者
ケース検討会	月1回	利用者の全体の生活支援に関するに事。	施設長・生活支援・医務
入退所判定会議	随時	利用者の入退所に関する事	関係者
食事検討委員会	随時	食事全般に関する事	施設長、栄養士、調理員、支援職員等
保健検討会	随時	利用者の健康管理に関する事	看護師他
虐待防止委員会	年4回	利用者に対する虐待に対しての防止や検討。虐待を防止するための体制整備。利用者の権利擁護。利用者が福祉サービスを適切に利用できるように支援。虐待の防止に努めるとともに、障害者の権利・生命・財産を守ること。	施設長・生活支援他
苦情解決委員会	随時	利用者の福祉サービスの利用権を守り、自由・人権・プライバシーが確保されているかを点検すると共に福祉サービス需給過程における様々な苦情の解決及び生活上の相談等。	施設長・役職者等

12、地域・ボランティア・研修の受け入れ

- (1) 行事ボランティア受け入れをしました。
- (2) 保育実習生、介護等体験実習生の受け入れをしました。

平成29年度埼玉福祉事業協会活動報告

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

年	月	日	利用者関連行事	法人・職員関連	
H29	4	7		家族会	
		9	しびらき祭り参加		
		10	健康診断	職員健康診断	
		16		家族会(役員会)	
		19	(授産製品販売)東浦和葬祭センター		
		20	(授産製品販売)東浦和葬祭センター		
		29	埼玉福祉事業協会フェスティバル		
	5	2		通所家族会(準備会)	
		21		家族会(役員会)	
		26		法人理事会	
		27	蕎麦打ち昼食会		
	6	4	大宮ゆめの園祭り参加		
			大宮アルディージャ手話応援参加		
			(授産製品販売)北浦和とハッピーロードフェア		
		7		チャリティゴルフ(協力会主催)	
		13	避難訓練(火災)	法人理事会・評議員会	
		18	親睦旅行(2泊3日)広島方面	家族会(役員会)	
		19	親睦旅行(2泊3日)広島方面		
	20	親睦旅行(2泊3日)広島方面			
	7	2	親睦旅行(1泊2日)草津方面		
		3	親睦旅行(1泊2日)草津方面		
		7	七夕会		
		16		家族会(役員会) 八雲神社祭礼 塚本神明神社居祭	
		17	たのしいスポーツレクリエーションのつどい参加		
	8	4		家族会	
		6	大宮日進七夕まつり参加		
		7	大宮日進七夕まつり参加		
		20		家族会(役員会)	
		26		家族会親睦旅行	
		27			家族会親睦旅行
					塚本自治会右岸親睦旅行(山梨方面)
	9	1		家族会	
	10	8	埼玉福祉事業協会大運動会		
		15		家族会(役員会)	
		22	(授産製品販売)ひかわ青空市		
			(授産製品販売)ケア大宮花の丘		
		27		法人理事会	
		28	(授産製品販売)みぬま秋フェス		
			(授産製品販売)県リハセンターまつり		
	29	(授産製品販売)みぬま秋フェス			
	H29	11	4	(授産製品販売)サイクルフェスタ	
			5	(授産製品販売)フィッシング祭	
6			塚本自治会親睦旅行1日目		
7			塚本自治会親睦旅行2日目		
10		(授産製品販売)埼玉うまいもの市場	家族会		
11		西区ふれあい祭り参加			
		(授産製品販売)埼玉うまいもの市場			
12		(授産製品販売)夢KANA音楽祭			
		(授産製品販売)埼玉うまいもの市場			
21			法人理事会・評議員会		
28			塚本神明神社大祭		
30		障害者支援施設ゆずり葉 説明会			

平成29年度埼玉福祉事業協会活動報告

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

	12	8		家族会
		9		障害者支援施設ゆずり葉 説明会
		15	クリスマス会	
		18		法人理事会
		19	避難訓練(地震)	
		22		法人評議員会
		28	餅つき大会	
H30	1	1	初詣(塚本神明神社)	塚本神明神社元旦祭
		4	通所利用者新年会	
		5	新年会&初詣(川越 喜多院)	
		14		塚本自治会親睦旅行(成田山)
		17		法人理事会
		21		家族会(役員会)
	2	3	節分会	
		9		家族会
		18		家族会(役員会)
	3	3	(授産製品販売)浦和コミュニティセンター	
		4	(授産製品販売)浦和コミュニティセンター	障害者支援施設ゆずり葉 起工式
				塚本神社 春祭り
		8		通所家族会準備会
		9		家族会
		17	西来るフェスタ参加(外出支援)	
			(授産製品販売)障害者センター文化芸術イベント	
		26		法人評議員会
	その他		・個別またはグループ外出支援(月1回)	・個別支援計画の目標面接
			・ふれあい音楽交流会(月1回)	3/8、9、12、13、14、20
			・DVD鑑賞(随時)・カラオケ(随時)	・運営会議・職員会議及び支援会議(月1回)
			・トレーニング(月2回)	上記他、作業班ごとにケース会議(月1回)、
			・理美容(月2回)	給食会議、虐待防止委員会を実施。
			・公園清掃 年回52回(原則 毎週金曜日)	
	見学・実習受け入れ		・施設実習受け入れ人数:6大学31名	
			・介護等体験受け入れ人数:9大学19名	
			・さいたま市中学生職場体験事業(未来くるワーク体験):3名	
			・見学者受け入れ人数:137名	
			6/9大宮北特別支援学校(16名)、8/9 埼玉県立特別支援学校塙保己一学園(10名)、	
			10/11指扇地区民生委員(12名)、11/27 埼玉県障がい者共同作業所職員(2名)、	
			12/7 さいたま市手をつなぐ育成会(15名)、2/20埼玉県立大宮北特別支援学校(7名)	
		3/2 埼玉県立大宮北特別支援学校(22名)、3/6さいたま市立ひまわり特別支援学校(29名)		
		その他個別の見学4/5.7.16.6/29.7/7.21.25.8.11/27.2/6.16.22.23.28.3/5.15(計24名)		

利用者の状況

H30.3.31

杉の子学園 生活介護事業

年齢別利用者状況		市町村別利用者状況				障害支援区分別利用者状況	
年齢区分	人数	市町村名	人数	市町村名	人数	区分	人数
18～20歳	7	さいたま市	42	久喜市	0	1	0
21～30歳	16	川越市	5	南埼玉郡	0	2	0
31～40歳	11	川口市	4	北葛飾郡	0	3	0
41～50歳	33	朝霞市	4	草加市	2	4	0
51～60歳	8	上尾市	2	志木市	0	5	4
61～70歳	2	ふじみ野市	2	春日部市	1	6	75
71歳～	2	板橋区	1	鴻巣市	2	合計	79
平均年齢 38.6歳	79	和光市	1	三郷市	2		
		日高市	1	蓮田市	2		
		東松山市	1	鶴ヶ島市	1		
		越谷市	2	吉川市	1		
		富士見市	1	宮代町	1		
		杉戸町	1	合計	79		

杉の子学園 施設入所支援事業

年齢別利用者状況		市町村別利用者状況				障害支援区分別利用者状況	
年齢区分	人数	市町村名	人数	市町村名	人数	区分	人数
21～30歳	1	さいたま市	20	南埼玉郡	1	1	0
31～40歳	8	川越市	1	北葛飾郡	2	2	0
41～50歳	34	川口市	4	草加市	2	3	0
51～60歳	4	朝霞市	4	志木市	0	4	0
61～70歳	2	上尾市	1	春日部市	1	5	0
71歳～	1	越谷市	2	鴻巣市	2	6	50
平均年齢 45.1歳	50	和光市	1	三郷市	1	合計	50
		日高市	1	蓮田市	2		
		東松山市	1	吉川市	1		
		富士見市	1	板橋区	1		
		久喜市	1	合計	50		

プリムローズ 共同生活援助事業

年齢別利用者状況		市町村別利用者状況				障害者程度区分別利用者状況	
年齢区分	人数	市町村名	人数	市町村名	人数	区分	人数
18～20歳	0	さいたま市	5	蓮田市	1	1	0
21～30歳	1	富士見市	1	合計	7	2	0
31～40歳	0					3	0
41～50歳	3					4	0
51～60歳	1					5	0
61～70歳	1					6	7
71歳～	1					合計	7
平均年齢 56.3歳	7						

あかしあの森 就労移行支援事業

H30.3.31

年齢別利用者状況		市町村別利用者状況			
年齢区分	人数	市町村名	人数	市町村名	人数
18～20歳	3	さいたま市	2	朝霞市	0
21～30歳	1	川越市	1	志木市	0
31～40歳	1	越谷市	0	吉川市	0
41～50歳	1	富士見市	1	川口市	1
51～60歳	0	三郷市	1	合計	6
61～70歳	0				
平均年齢 27.1歳	6				

あかしあの森 就労継続支援A型事業

年齢別利用者状況		市町村別利用者状況			
年齢区分	人数	市町村名	人数	市町村名	人数
18～20歳	0	さいたま市	6	久喜市	0
21～30歳	1	北本市	0	川口市	1
31～40歳	3	川越市	2	寄居町	0
41～50歳	4	久喜市	1	合計	9
51～60歳	0				
61～70歳	1				
平均年齢 40.9歳	9				

あかしあの森 就労継続支援B型事業

年齢別利用者状況		市町村別利用者状況			
年齢区分	人数	市町村名	人数	市町村名	人数
18～20歳	1	さいたま市	28	川口市	1
21～30歳	19	草加市	1	志木市	2
31～40歳	5	川越市	1	杉戸町	1
41～50歳	10	富士見市	2	蓮田市	1
51～60歳	3	宮代町	2	上尾市	1
61～70歳	2			合計	40
平均年齢 35.9歳	40				

短期入所事業利用実績状況											H30.3.31	
月	利用日数	利用者数		月	利用日数	利用者数		月	利用日数	利用者数		
		男性	女性			男性	女性			男性	女性	
H29年 4月	30	21	9	8月	31	21	10	12月	31	22	9	
	11~29	0	0		11~30	0	0		11~30	0	0	
	10	0	0		10	0	0		10	0	0	
	9	0	0		9	0	0		9	0	0	
	8	0	0		8	0	0		8	0	0	
	7	0	0		7	0	0		7	0	0	
	6	0	0		6	0	0		6	2	0	
	5	0	0		5	2	0		5	1	0	
	4	2	0		4	3	1		4	0	0	
	3	3	2		3	4	1		3	2	1	
2	1	1	2	2	3	2	8	1				
1	1	0	1	1	0	1	2	1				
述べ利用日数/月		649	278	述べ利用日数/月		689	323	述べ利用日数/月		721	284	
利用者数/月		27	12	利用者数/月		32	15	利用者数/月		35	11	
平均利用数/日		30.9		平均利用数/日		32.6		平均利用数/日		32.4		
月	利用日数	利用者数		月	利用日数	利用者数		月	利用日数	利用者数		
		男性	女性			男性	女性			男性	女性	
5月	31	21	9	9月	30	21	10	H30年 1月	31	22	8	
	11~30	0	0		11~29	1	0		11~30	0	0	
	10	0	0		10	0	0		10	0	0	
	9	0	0		9	0	0		9	0	0	
	8	0	0		8	0	0		8	0	0	
	7	0	0		7	0	0		7	0	0	
	6	0	0		6	0	0		6	0	0	
	5	2	0		5	0	0		5	0	0	
	4	2	1		4	1	0		4	0	1	
	3	4	1		3	5	1		3	2	1	
2	3	1	2	2	1	2	2	0				
述べ利用日数/月		687	288	述べ利用日数/月		668	305	述べ利用日数/月		692	255	
利用者数/月		32	12	利用者数/月		30	12	利用者数/月		26	10	
平均利用数/日		31.5		平均利用数/日		32.4		平均利用数/日		30.5		
月	利用日数	利用者数		月	利用日数	利用者数		月	利用日数	利用者数		
		男性	女性			男性	女性			男性	女性	
6月	30	21	10	10月	31	20	10	2月	29	22	9	
	11~29	0	0		11~30	0	0		11~28	0	0	
	10	0	0		10	0	0		10	0	0	
	9	0	0		9	0	0		9	0	0	
	8	0	0		8	0	0		8	0	0	
	7	0	0		7	0	0		7	0	0	
	6	0	0		6	0	0		6	0	0	
	5	0	0		5	0	0		5	0	0	
	4	2	0		4	0	0		4	0	0	
	3	5	2		3	0	0		3	6	1	
2	2	0	2	1	0	2	0	0				
述べ利用日数/月		657	306	述べ利用日数/月		622	310	述べ利用日数/月		656	264	
利用者数/月		30	12	利用者数/月		21	10	利用者数/月		28	10	
平均利用数/日		32.1		平均利用数/日		30.1		平均利用数/日		31.7		
月	利用日数	利用者数		月	利用日数	利用者数		月	利用日数	利用者数		
		男性	女性			男性	女性			男性	女性	
7月	31	21	10	11月	30	22	8	3月	31	22	9	
	11~30	0	0		11~29	0	0		11~30	0	0	
	10	0	0		10	0	0		10	0	0	
	9	0	0		9	0	0		9	0	0	
	8	0	0		8	0	0		8	0	0	
	7	0	0		7	0	0		7	0	0	
	6	0	0		6	0	0		6	0	0	
	5	0	0		5	0	0		5	0	0	
	4	0	0		4	1	0		4	0	0	
	3	5	1		3	2	1		3	6	2	
2	4	0	2	2	2	2	3	0				
述べ利用日数/月		674	313	述べ利用日数/月		674	247	述べ利用日数/月		706	285	
利用者数/月		30	11	利用者数/月		27	11	利用者数/月		31	11	
平均利用数/日		31.8		平均利用数/日		30.7		平均利用数/日		32.0		
									年間	男性	女性	合計
									述べ利用日数	8,095	3,458	11,553
									年間利用者数	349	137	486
									平均利用者数	31.6		